

## バイエルン州 ビジネスニュース

2012年 ー 第1号 ー

## トピックス

新年のご挨拶 → Page 1

ミュンヘン工科大学開発の電気自動車MUTE  
→ Page 1

バイエルン州の日系ロボット → Page 2

世界記録のガスタービン 商業運転へ  
→ Page 2

ミュンヘンでITサミット開催 → Page 2

モバイル通信 ー 未来のネットワーク  
→ Page 3

ニュルンベルクのレープクーヘン → Page 4

バイエルン州 環境賞を受賞 → Page 4

バイエルン州の優れた建築を巡る旅  
→ Page 55分間インタビュー：株式会社タダノ  
→ Page 52011年ハイライト & 2012年1月～3月予定  
→ Page 6

## 新年のご挨拶 ーバイエルン州駐日代表部から皆様へー

新しい年を迎え、日本とバイエルン州の絆を深める

2011年は日本にいる全ての人にとって、大きな試練の年でした。その中で、多くの人が自分の持てる力を最大限に発揮し、他者への思いやりを持って危機を乗り越えていく姿は、日本だけでなく他の多くの国の人々にも感銘を与えました。大変困難な一年ではありましたが、むしろ人々のあたたかい心に触れて、人の心の中にこそ新しい希望の光を見出すことができた気がします。

そんな中で開催された日独交流150周年の様々なイベントは、これまでの長い友好の歴史を私たちに再認識させる大変良い機会となりました。本年も引き続き、春先まで関連行事が各地で開催される予定です。

また、日独交流150周年の年にドイツで開催された女子サッカーワールドカップで日本が優勝したという快挙は、両国にとって非常にうれしい出来事でした。「なでしこジャパン」も

「絆」も、今や世界の共通語になりました。

さて、新しい年、2012年が始まりました。日本では、いよいよ復興・新生のための大きなビジョンと戦略、そして何よりも実行力と推進力が必要になってきます。企業であれ、個人であれ、私たち一人一人が果たせる役割を自覚し、社会の一員として希望ある未来を築いていく責任を担うこととなります。

私たちバイエルン州駐日代表部も日本の一員として、少しでも日本の皆様のお役に立ちたいと願っています。日本とバイエルン州の経済交流はもちろんですが、それだけでなく、様々な交流を通じて、より深い友情を結んでいきたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

代 表： クリスティアン・ゲルティンガー  
プロジェクトマネージャー： 田山 野恵

## ミュンヘン工科大学開発の電気自動車MUTE



TUM, Corporate Communications Center

「ミュート (MUTE)」ーミュンヘン工科大学により開発された電気自動車はそう名付けられた。フランクフルトの国際モーターショー (IAA) で業界に強烈な印象を与えたこのエコカーは、その魅力と手の届く価格で、将来の移動手段として解決策を提示した。

ミュンヘン工科大学の20に及ぶ講座、そして200人以上の職員と学生が参加し、市街地走行用2人乗りスポーツタイプ車、そして2台目の車として所有することを想定した「MUTE」を開発した。荷物用の広いスペースを持つ2人乗り乗用車で、最大時速120キロで走行する。リチウムイオン電

池を搭載することにより達成した最低走行距離は100キロである。技術的な性能と共に、そのエレガントなデザインが専門家に高く評価されている。

この革新的な電気自動車のコンセプト作りはミュンヘン工科大学に併設されたミュンヘン・エンジニアリング・スクール (Munich School of Engineering) の初仕事となった。この学校では「エネルギー・グリーンテクノロジー」という将来に役立つテーマを専門分野としており、実技を重んじながら、学術的な教育が行われている。

→ [www.mute-automobile.de](http://www.mute-automobile.de)



## 2011年ハイライト

## 4月...

- ・ **バイエルン州の2つの産業クラスター**  
「クラスター・メカトロニク&オートメーション (Cluster Mechatronik & Automation e.V.)」と「フォーラム・メディテックファーマ (Forum MedTech Pharma e.V.)」が埼玉県とのパートナーとしてジェット口の地域間交流支援 (RIT) 事業に参加することが決定された。今後最大3年間の交流を通じて新たなビジネスの可能性を開拓する。



埼玉からの視察団がニュルンベルク商工会議所を訪問



www.baumwipfelpfad.by/bwp\_de/infos-kontakt/presse.php

中世の要塞に建てられた望楼。①フランケン地方の有名なワイン産地イブホーフェン市にあるクナウフ博物館 (Knauf-Museum)、②アルゴイ地方フィッセンにあるエクスプローラーホテル・フィッセンである。バイエルン州は既に良く知られた観光地ではあるが、観光客の数は毎年増え続けている。2011年の第3四半期までの統計によると、バイエルンに訪れた旅行者の数は到着ペースで約2300万人、宿泊ペースで約6360万人であり、これは前年比5.5%の増加を示している。特にここ最近ではフランケン地方とバイエルン州東部への観光客数の増加が顕著に見られる。

→ <http://www.byak.de/start/architektur/artouro/projekte>

→ <http://www.bayern.by/architektur>

## 10月...

- ・ 2011年10月4日、**バイエルン州のバイオテクノロジー・クラスター**を代表するBioM(バイオ・エム)と関西地域のバイオテクノロジーを推進する大阪バイオヘッドクォーターが協定を結んだ。今後、技術開発や研究、ビジネスにおいて連携を強め、両地域でのバイオビジネスを活性化させる。

- ・ **日独交流150周年**の記念イベントとして2011年10月23日、東京でドイツフェスティバルが開催され、会場には2万人が訪れた。バイエルン州駐日代表部も出展し、サッカーチームFCバイエルンのユニフォームに寄せ書きをしてもらったイベントや、バイエルン王ルートヴィッヒ2世のコスチュームで記念撮影をするアトラクションなどでイベントを盛り上げた。



多くの方にFCバイエルンのTシャツに寄せ書きをいただきました

<バイエルン州駐日代表部について>

バイエルン州駐日代表部は1988年に日本(東京)に設立されたドイツ・バイエルン州経済運輸技術省の日本代表事務所です。日本企業のバイエルン州への企業進出(現地法人や駐在員事務所の設立など)や、貿易取引のビジネスパートナーとしてのバイエルン企業探しなどに関し、詳細な情報、豊富な実務経験に基づくアドバイスを提供しています。関心をお持ちの方はお気軽にご相談ください。

バイエルン州駐日代表部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-11-1  
オランダヒルズ森タワー ROP 801  
TEL: (03) 6809-1416  
FAX: (03) 3433-1552  
E-MAIL: BAYERN@BAYERN-JAPAN.ORG  
HP: WWW.INVEST-IN-BAVARIA.JP

代表  
Dr.クリスティアン・ゲルティンガー

プロジェクトマネージャー  
田山 野恵

## バイエルン州の優れた建築を巡る旅

バイエルンの森国立公園には世界最長の樹上回廊(=樹冠歩道:樹上に設けられた木製ブリッジの遊歩道)がある。最高では地上25メートルの高さに位置する、およそ1300メートルにわたる木道を散歩することができるのだ。この度、この樹上回廊がバイエルン観光建築賞「アルトゥーロ (artouro)・プライス」を受賞した。観光と言う視点から特筆すべき建築物を奨励する目的でバイエルン建築会議所とバイエルン州経済省が2011年に新たに創設したのがバイエルン観光建築賞「アルトゥーロ・プライス」である。

バイエルン州経済大臣ツァイル氏は「素晴らしい建築は人を引き寄せ、そうであるとするれば、バイエルン州の観光業界にとって、そうした建築物は非常に重要な要素だと言えるだろう。今回表彰された様々な建物や構造物は、バイエルン州の観光にとって、ともかくにも当地への旅行は素晴らしいのだ、という目印にもなる。」と述べている。

今回、この樹上回廊の他に建築賞を受賞したのは、①ミュンヘンのブランドホルスト美術館 (Brandhorst Museum)、②ドイツ最高峰ツークシュピツェ山の麓にあるホテル・クラッツバッハ (Hotel Kranzbach)、③ボデン湖のほとりのワインショップ、ヴィンツァーホーフ (Vinothek Winzerhof)、④シュヴァインフルトの旧市役所内にあるツーリスト・インフォメーション、⑤チェコとの国境に近いヴァルトザッセンにある修道院ホテル Haus St. Joseph、⑥トロイヒトリンゲン (Treuchtlingen) 市外に位置す

## 5分間インタビュー

株式会社 タダノ  
執行役員常務  
飯村 慎一 氏



1. **御社の事業概要とセールスポイントを教えてください。**

(株)タダノはクレーン車をメインとするLifting Equipmentのメーカーであり、1990年にドイツのクレーン車メーカーであったFAUN社を買収し、欧州における製造・販売拠点と位置づけました。FAUNは特にクレーン車の車両技術に伝統的な強みを有し、タダノにおけるクレーン技術とFAUNの車両技術の融合により、グローバルな製品展開を志しています。欧州は、弊社にとって日本・米国と並びクレーン車の基幹市場との位置づけであり、その中で特にドイツはクレーン車の一大需要国であると共に生産開発における世界の中の先進国です。私共は、このドイツに製造・販売拠点をもち、日本との間で製造レンジの棲み分けを行う事によって、よりグローバルに、お客様のご要望にお応えしていきたいと考えています。

2. **バイエルン州のTADANO FAUN GMBHは既に20年以上の歴史がありますが、日本とドイツのビジネス環境の違いを感じることはありますか。** 私自身、7年間ドイツにて現地の方々と共に仕事をし、他の欧州各国よりも考え方を共有し易いと感じる事がしばしばありました。その一方で、キリスト教をベースとした文化・考え方がビジネスにもしつかりと反映されており、時間を大切に、又個人を大切にするという事をビジネスの中でも大いに経験しました。その一方で人付き合いは日本以上に深いとも感じました。

3. **互いに理解し合ってより良い仕事をするための秘訣は何でしょうか。**

とにかくとことん議論し合う事につきるかと思います。ドイツ人の私の同僚とも言い争いになるくらい議論を行いました。そうすると相手の性格や考え方も次第に判ってきます。又、言い争いをして後に尾を引く事は少なかったと思います。逆に議論して疑問を解消出来なければ、問題の先送りやわだかまりを残す事になります。私も、日本で勤務していた時分よりも大分多くの議論に時間を費やし、そうする事によって中に入っていくことが出来たと感じています。

4. **バイエルン州に拠点を持つことのメリットは何でしょうか。**

私共の拠点があるLauf a.d. Pegnitzは、ドイツの主要都市の一つであるニュルンベルクから非常に近い町であり、地理的にも「欧州の中心」である為、欧州中のお客様・販売代理店にいつでも来て頂けるという位置関係であり、実際、会社には常に欧州中からの来訪者がおられました。又、他のドイツ主要都市へのアクセスもアウトバーンを利用して非常に便利であり、ドイツ内の出張はほぼ例外なく車を利用しています。ビジネス面のみならず、生活面でも非常に整備された州であると思います。

5. **御社の今後の事業展望についてお聞かせください。**

既にFAUNを買収してから20年余りが経過しましたが、世界のグローバル化に呼応して、更に同地での事業を拡大していきたいと考えています。世界の景況が非常に変動している今の時代ですが、建設需要はまだまだ尽きる事はありません。世界のお客様のご要望に出来る限りお応え出来るよう、これからも努力を続けていきたいと考えております。

## バイエルン州の日系ロボット

産業用ロボットと駆動技術における日本の世界的企業がヨーロッパ本社拠点として選んだのはバイエルン州だった。安川電機ヨーロッパ社 (Yaskawa Europe) はミュンヘン近郊アラースハウゼン (Allershausen) に約1250万ユーロを投資することを決めた。新拠点の着工式で行われた鋤入れの儀では、バイエルン州のツァイル経済大臣を同社の2本アーム型ロボットMotoman (商標) が力強くサポートする姿があった。

自動溶接技術分野において同社の商標は30年来その評価を確立しており、特に自動車産業界では同社のロボットシステムが広く導入されている。合計22万台以上の同社製ロボットが世界中の工場で稼働している。安川電機はアラースハウゼンからヨーロッパ全土のロボット事業を指揮する。ここに研究・開発、オーダーメイドのシステム調整、管理部門、ロジスティックおよびカスタマーサポートが集約されることになる。安川電機ヨーロッパ有限会社 (Yaskawa Europe GmbH) 社長シュテルン氏は欧州での販売を大幅に増やすことに意欲的だ。「目標は欧州で毎年設置されるMotomanロボットの台数を2015年までに倍増し、6,000台以上にすることです」と話した。同社ではまた、顧客サービスと顧客の付加価値に注力する。そのためにアラースハウゼンには包括的なカスタマーサポートセンターが設置され、オーダーメイドのシステム調整とロジスティックが強化される。2012年8月に開業される欧州本社では新たに50人が採用される見通しだ。

→ [www.yaskawa.de](http://www.yaskawa.de)

## ミュンヘンでITサミット開催

政治、科学および経済分野の専門家により毎年開かれるドイツのITサミット、今年のホストはバイエルン州であった。「ネットワーク、モバイル、スマート」が第6回ドイツITサミットの標語だ。

12月6日にミュンヘン国際会議センターで開催された会議にはメルケル首相も出席した。今年の重点テーマは「モバイル社会」。ドイツ連邦経済・技術省により方向づけられたこの会議の中心課題はモバイルIT技術分野での革新と開発である。

「我々はIT拠点としてのミュンヘンの能力および経済と社会のための情報技術の意味を強力にアピールしたい」とバイエルン州ツァイル経済大臣が述べた。今年で第6回となるこのサミットの目的はトップレベルのIT拠点としてドイツの地位を強化し、さらに発展させることにある。

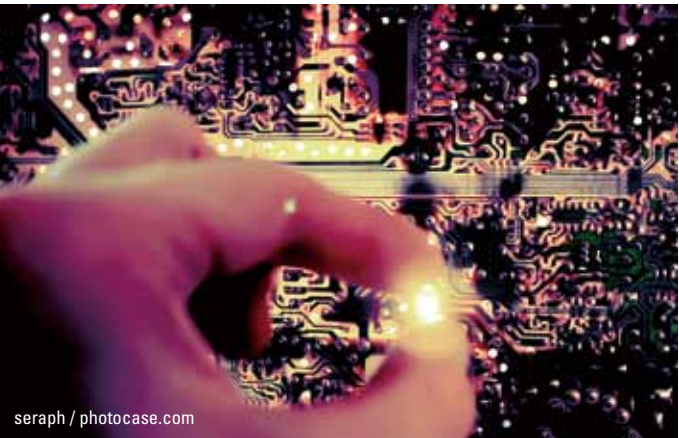
バイエルン州は単にホストとしてだけでなく、重要な役割を演じている。バイエルン州ではツァイル経済大臣とシーメンス社の研究部長アハツ氏を議長とする多分野横断的なプロジェクトとその応用方法を開発する独自のワーキンググループを設立し、これをサミットで紹介した。このワーキンググループの開発にはバイエルン州に拠点を置く産業界で重要な意味を持つ企業も参加している。その中にはDAX (フランクフルト証券取引所における指定30銘柄) に名を連ねる大企業アリアンツ (Allianz)、BMW、インフィニオン (Infineon) やシーメンス (Siemens) が含まれている。バイエルン州は世界的なIT拠点として、経

## 世界記録のガスタービン 商業運転へ

イルシング第4発電所 (Irsching 4) のガスタービンは試運転で効率60.75%という世界記録を達成した。750人のシーメンス社員により開発されたこの型式のガスタービンは、ガスタービンと蒸気タービンの複合運転において、出力600メガワットでの化石燃料発電所の効率の新基準を作った。シーメンス社エネルギーセクターの本部長ジュース氏は、「これは歴史的な出来事だ」と語る。

このワールドレコードを達成したガスタービンはE.ON社の運営で既に商業運転に入っている。E.ON社のガス・蒸気複合発電部門長であるハマー氏にとって、オーバーバイエルン地方フォーブルグ (Vohburg) にあるこの発電所は、明日のエネルギー供給のための模範的な例である。「高効率でフレキシブルな運転が可能なガスタービン発電所は、再生可能エネルギーを電源系統へ接続する際に生じる電力量の変動を調整するのに大いに役立つからです。」

→ [www.bayern-shandong.com.cn/de/index.asp](http://www.bayern-shandong.com.cn/de/index.asp)



済界と学術界の積極的なネットワーク作りを行っている。そのため、ワーキンググループにはミュンヘン大学、ミュンヘン工科大学およびフラウンホーファー研究所をはじめとする大学や研究機関も名を連ね、これに取り組んでいる。

今年のサミットのテーマはバイエルン州のIT産業の強さと開発力の潜在性を示した。バイエルン州のワーキンググループはモビリティの本質的な要素に集中して取り組んでいる。「シームレスモビリティ」すなわち、完全に調和のとれた、切れ目のないモバイル手段の開発に重点を置いている。バイエルン州のユーザー企業、情報・通信技術メーカーと大学の代表が協力してこのサミットで全く新しいモバイル手段の道を拓く。分野横断的な能力を駆使してバイエルン州の専門家がモバイル社会の新しい可能性を開発する。社外からスピーディーにトラブルなくメディアを利用する、モバイルで支払う、モバイルで仕事をする、これらは到来するイノベーションの一例にすぎない。

→ [www.it-gipfel.de](http://www.it-gipfel.de)

→ [www.it-gipfelblog.hpi-web.de](http://www.it-gipfelblog.hpi-web.de)

## モバイル通信－未来のネットワーク



バイエルン州は情報通信技術の開発拠点として、世界でもトップクラスにある。中規模のIT専門企業はバイエルン州のIT産業クラスターであるBICCnetのサポートにより、この産業のグローバルプレーヤーとネットワークを形成している。

モバイル通信の分野では未来に向けたイノベーションが起こっている。バイエルンのITクラスターBICCnetは、企業が最適なパートナーを見つけることができるように産業と科学、企業と大学、研究者と投資家を結び付けており、BICCnetはまた、バイエルン州の企業が自社の革新的技術をマーケットにのせられるよう支援している。革新的なプロジェクトに対し、バイエルン州では情報・通信技術支援プログラムによるサポートを行っている。

### バイエルン州に集うIT企業

バイエルン州がこの十年来、世界中から数多くのIT企業を惹きつけているのには理由がある。モバイル情報・通信分野の企業にとってバイエルン州という拠点が最適な条件を備えているということは、進出企業のリストが証明している。

ドイツ大手のネット運営会社テレフォニカ・ジャーマニー (Telefónica) が拠点を持つミュンヘンは、ドイツの中でも最大のインターネット運営拠点の一つとなっている。同社は2010年半ばにミュンヘンにおいて、ドイツでは初となる「ロングタームエボリューション (LTE) テストネットワーク」の運用を始めた。このモバイル無線ネットワークは現行のHDSPA標準の最大5倍の速度でデータを伝送することができる。このLTEネットワークは目下、バイエルン州内の地方都市で運用の準備が進められている。

情報・通信技術分野におけるもう1つの重要な拠点はノキア・シーメンス・ネットワークス社 (Nokia Siemens Networks) で、こちらはミュンヘン市内にある。

ニュルンベルクにあるフラウンホーファー統合ネットワーク研究所は産業界の学術パートナーとしてWLANをベースにしたモバイル無線機器用マッピングシステムを提供している。WLAN機能付きモバイル端末の所有者は現在位置だけでなく、その場所固有の情報を呼び出すことができる。

11年前に設立されたミュンヘンの会社、マインドマティックス社 (MindMatics AG) は、今やモバイル無線をベースとする支払システムのトップ企業に成長している。

### バイエルン州のイノベーションセンター

エアランゲン・ニュルンベルク地域は革新的なクラスターを持っているという点で、その個性を発揮している。例えば、世界トップクラスのネットワーク運営業者であるアルカテル・ルーセント社 (Alcatel-Lucent) はここにモバイル通信のための研究・開発センターを置いているし、ナッシュ・テクノロジーズ社 (Nash Technologies) はUMTS/HSDPAのための世界で初、かつ世界最大の社内テストネットワークを運用している。さらにニュルンベルクにはヨーロッパ地域のオープンソースネットワーク財団である「オープン・ソース・ビジネス・ファウンデーション (Open Source Business Foundation)」がある。

ニュルンベルクの隣エアランゲンにあるサンヒルテクノロジーズ社 (sunhilltechnologies) は欧州で最も普及しているモバイル無線による駐車システムを開発した会社である。sms&parkと名付けられた同社の駐車システムは、既に10年も前にクロアチアの首都ザグレブで導入されている。同社によれば欧州80都市における全ドライバーの85%がこのシステムを利用しているという。

国際見本市が多く開催されるメッセ都市ミュンヘンとニュルンベルクはまた、多くの企業に自社製品のマーケティングのために格好の場を提供していると言える。ミュンヘンで開催される「エレクトロニカ (Electronica)」やニュルンベルクで開催される「e-プロキュア (e-procure)」のような国際見本市には、毎年、世界中から情報・通信技術の専門家が集まる。

これに加え、多くの他の組織もバイエルン州のIT分野の成長を促進している。オーバーフランケン地方とウンターフランケン地方のITクラスターやシュヴァーベン通信・情報イニシアティブ組合とが現地の関連事業者を結び付けている。この分野で最近特に目立った活躍をしているのはオーバープファルツ地方だ。オーバープファルツ地方では、この数年に設立された企業の約30%がIT分野に属しており、この傾向はまだ続きそうだ。次世代を担う有能な人材が現地の諸大学から集まってきており、レーゲンスブルグIT蓄積・起業センターは新たな基盤設立や企業の新規進出を支援している。

→ [www.invest-in-bavaria.de/branchen-und-cluster/informations-und-elektrotechnik/informations-und-kommunikationstechnik/](http://www.invest-in-bavaria.de/branchen-und-cluster/informations-und-elektrotechnik/informations-und-kommunikationstechnik/)

→ [www.bicc-net.de/](http://www.bicc-net.de/)

→ [www.iis.fraunhofer.de](http://www.iis.fraunhofer.de)

## ニュルンベルクのレープクーヘン：ドイツの伝統焼菓子

レープクーヘン (Lebkuchen) は発明後6世紀経った今も、雪や樅の木と同様にバイエルンのクリスマスシーズンには欠かせないものである。寒い冬の期間、フランケン地方の菓子メーカーはこの美味しいお菓子の製造で大忙しとなる。

14世紀末、中部フランケン地方の修道院でこのスパイスの効いた焼菓子のサクセスストーリーが始まった。フランケン地方の修道女と修道士はベルギーのディナン (Dinant) 産のお菓子を料理メニューに取り入れ、形を変えて滋養のある巡礼用携帯食にと作り替えた。このスパイスの効いたお菓子の評判は上々だった。修道院の外でもパン屋がオプラートに載せた丸くて平たい菓子を作るようになるまでには、そう長くはかからなかった。「レープクーヘン製造」という職業が生まれ、まもなくそのための同業組合も設立された。1643年にニュルンベルク市の評議会がこの職業を公式に認可し、今日ではレープクーヘンはニュルンベルクを代表する菓子として、そのイメージを国内外に定着させている。

この伝統あるお菓子がどうしてレープクーヘンという名前になったのかは今日まで謎である。レーベン (Leben=生きる) という単語からきているという説はどれも疑わしい。丸くて平たいパン (Fladen) に対応するラテン語のlibumに由来するという説のほうがずっと本当らしく思われる。しかし、語源学者の間ではゲルマン語のLaib (まるく成型したパン) も可能性のある起源として議論されている。いずれにしてもレープクーヘンはその長い歴史において一つだけではなく多くの別の名前でも呼ばれてきた。クリスマス時期の典型的なクッキーとしてはプフェアークーヘン (Pfefferkuchen) やゲヴェルツクーヘン (Gewürzkuchen)、あるいはホーニククーヘン (Honigkuchen) という名でも知られており、地方によってはレーベンスクーヘン (Lebenskuchen)、ラーベクーヘン (Labekuchen)、レッククーヘン (Leckkuchen) またはマーゲンブロット (Magenbrot) などの名で売られている。

レープクーヘン作りの中心地としてニュルンベルクが世界的名声を博してきた背景には、歴史的に有利な立地条件があった。かつての帝国都市における交通の要衝であり、周囲が森に囲まれ、養蜂家や活発な蜂蜜同業組合など、フランケン地方のパン屋の目の前には原料と市場があったのである。

何世紀にもわたって美食家は常に新しい味を享受してきた。砂糖がけやチョコレートがけ、コーティングがないもの、オプラートのついたものとオプラートがないもの、そしてシナモン、アニス、ジンジャー、クローブ、カルダモン、コリアンダーなどの様々なスパイスの組み合わせ、などなど。すなわちレープクーヘンには決まったレシピはないと言える。基本材料、例えば蜂蜜、スパイス、アーモンド、各種ナッツ、菜種類、小麦粉などの配合に応じて、そして時代と共に味は様々な変化してきた。しかし、どんなに多様な種類があろうと、この伝統的な焼菓子に「ニュルンベルク」の刻印があれば、それはニュルンベルクの高い品質が守られている証である。1996年以降、レープクーヘンには欧州連合が規定する原産地名称保護制度による「地理的表示保護 (PGI)」が義務付けられている。

→ [www.lebkuchen.nuernberg.de](http://www.lebkuchen.nuernberg.de)



## バイエルン州 環境賞を授賞

今年のドイツ環境財団 (DBU) の環境賞はバイエルン州に与えられた。ウンターフランケン地方グロイゼンハイム (Greußenheim) の通信販売会社、メモ社 (memo AG) のシュミット氏がバーデンヴュルテンブルグ州レニンゲン (Renningen) のWS社 (WS Wärmeprozessechnik) の創業チームと共同で総額50万ユーロの賞を授賞した。

この通販会社は環境にやさしいエコ製品を通して20年以上にわたり事務所、学校、家庭、レジャー施設に長寿命の消費財を提供してきたのである。これにより同社は持続可能な社会のトレンドセッターとして、環境にやさしい企業に与えられるドイツで最も有名な賞を授与されたのだ。

ドイツ環境財団 (DBU) の環境賞は気候・環境保護、省資源、省エネ、あるいは持続可能な発展について模範となるような貢献をした企業に与えられる。フラウンホーファーやマックスプランク研究所のような研究機関、商工会議所および認定を受けた環境関連諸団体が授賞企業の推薦権を持っている。

→ [www.dbu.de/343.html](http://www.dbu.de/343.html)

## 今月の数字 85,000

2011年にはバイエルン州の各大学で計85,000人の若者が勉強を始めた。冬学期だけでも71,856人が総合大学と単科大学に登録しており、これによりバイエルン州の学生総数は新記録を達成した。また、合計321,443人の学生が様々な学部で聴講手続きをしている。これは前年比11.8%増である。ホイビッシュ科学大臣は「この数値は、当バイエルン州が学制改革に伴う2年分のアドトゥア合格者に対して、他州と比べて幅広い教育プログラムを用意したことが功を奏している」と強調した。

9つの州立総合大学、17の州立単科大学および地方自治体、教会、私立機関の運営する多くの単科大学に進む学生数が増え続けている背景には2つの政治改革があった。一つは2004年に開始された8年制ギムナジウムの導入であり、もう一つは兵役義務を当面廃止するという国防軍改革である。